

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷二十五第

月二年六十和昭

論叢

支那の田賦……………經濟學博士 八木芳之助

ナチス勞働配置の原理……………經濟學士 中川與之助

經營及企業の概念……………經濟學士 大塚 一朗

貨幣市場と資本市場……………經濟學士 中 谷 實

時論

現代日本の危機と經濟學……………經濟學博士 石 川 興 二

研究

ジージェックと形式的同種性の問題……………經濟學士 有 田 正 三

損益及び損益計算の問題……………經濟學士 尾 上 忠 雄

說苑

明治前期における日本經濟學の胎生……………經濟學博士 本庄榮治郎

附錄

彙報・外國雜誌論題

現代日本の危機と經濟學

石川興二

一 現代日本の危機と根本反省の必要

紀元二千六百年式典場に於て 陛下御自ら勅語を給はり、「實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判ルル所ナリ」と仰せられた。誠に現代日本は文字通り未曾有の非常時に立つて居るのであるが、この日本の非常時觀は本年に入り年頭より日々強化されつゝある有様である。今日に至るまで二千六百年の發展を果げ來り將來に向つて何千年の發展を果げ得べき日本の國運をしてこの現代の世界的變革期に於て全ふせしめ得るや否やは全く我々現代日本人の双肩に掛つて居るのである。

ローマは一日にしてならずと云はれるが、この現代日本の危機は決して一日にしてなつたものではない。多年の間こゝに至らざる可らざる原因があつて事こゝに至つたのである。故にこの現代の危機を通じて日本の國運を完ふせんとせば、先づ現代日本がこの未曾有の危機に陥り來れる所以の根本原因を卒直に明にし、而して根本に

於てこの原因を排除することに努力しなければならぬのである。それは恰も一家が非運に際會してこれより立ち上らんとすれば、一家を非運ならしめたる原因を究明して、これに向ふて大膽に手を加へねばならぬと同様である。これを恐れて、その根本原因を直視することを避け、これまでなしたる過誤を反省せず、これを塗糊してそのまゝにすぎんとするならば、それは恰も切開すべき病源を膏藥にて姑息に處理せんとするが如きものであつて、遂には再び立ち得ざるに至るのである。

「青少年に賜はりたる勅語」に於て「古今ノ史實ニ稽へ中外ノ事勢ニ鑒ミ其ノ思索ヲ精ニシ其ノ識見ヲ長シ」と仰せられたることは洵に至言である。人文學上の眞理は世界史實の比較研究の上に立脚しなければならぬ。これを世界史の事實について見るに、總て時代の變革期は各國の危機である。即ちこの變革期に於て、或國は隆興し或國は没落し行くのである。今日の世界史的變革期について見るも、ロシア、ドイツは著しく高まりたるに對しフランス其他の多くの國々は既に没落したのである。また中世より近世への變革期に於ても同様である。東洋のみについて見るも大國支那に至るまで總ての國々がその獨立性を失ふに至つたのに對し獨り日本のみは世界史的舞臺に高まり來つたのである。

而もかくの如くに各國の興亡を決した根本原因は一に歸するのである。それは國體の自覺に立つて變革期に處したるものと然らざるものととの相違である。今日ロシアがその國力を著しく増進せしむるに至りし所以のものは、既に第一次世界大戰期に於て社會主義的革命を敢行しそれ以來今日に至るまでの世界史的變革期に當りこのロシアの國體に最も適當せる立場に於て對處し得たが故である。同様にドイツもその國體に即する全體主義的立場に於てこれに對處し得たが故である。これに反してフランスは自らの國體の自覺に立たず英國に便乘しながら

遂に没落するに至つたのである。これを中世より近世への轉換期に於ける日支兩國について見れば、支那は世界史の變革期なることも自覺せず、自らを中華とする保守的な尊大な態度に居たが故に遂に大國支那も没落するに至つたのである。然るに日本は明治天皇を中心として明確なる國體の自覺に立ちこの世界史的變革期に處し得たるが故に、白人の重圍の中にあつてよくその侮を受けず、世界史に稀な興隆を果げたのである¹⁾。これが明治の日本の姿である。

然らばこの日本が今日未曾有の難局に立つに至つた所以のものは何であるか、それは明治の日本とは反對に、大正昭和の日本は多年國體を忘れ、この國體を忘れたるまゝ今日の世界史的變革期に突入し來つたが故である。現代日本の危機を突破せんとすれば何よりもこのことを明にすることを要する。而してこのことは明治の日本と大正昭和の日本とを比較研究することによつてはじめて十分明にされ得るのである。これ現代日本人の先づなさなければならぬことである。

かくして日本全體が今日難局に突入するに至れる所以のものは、國民全體の責任であつて、それを他の責任に歸することは出来ないのである。故に先づ國民生活の總ての領域にあるものは、根本的な反省をなし以て現代日本の危機に對する自己の領域の責任を明にしなければならぬ。これは政治、經濟、學問、軍事、外交等の一切の領域について云はれ得るのである。

かくして今日の國民的危機とこの國民的危機を將來せし所以が國民の前に明にされたる時、こゝに國民は一體の力となつて立ち上り得るのである。而も君民一體と云ふことが我國體であり、これが現代日本にとつて何よりも大切なのである。

1) 拙著『新體制の指導原理』第一篇第三章「世界革新の指導國民としての日本」参照。

即ち『紀元二千六百年式典に賜はりたる勅語』に於ては「今ヤ世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判カルル所ナリ爾臣民共レ克ク曩ニ降タシシ宣諭ノ趣旨ヲ體シ」と仰せられ、この御宣諭である『紀元二千六百年紀元節に賜はりたる詔書』に於ては特に臣民に對し「和衷戮力益々國體ノ精華ヲ發揮シ」と仰せられ更にこの國體の精華を「上仁愛ノ化ヲ以テ下ニ及ホシ下忠厚ノ俗ヲ以テ上ニ奉シ君民一體」と仰せられてゐる。今日の日本の最も危きことは外に幾多の國難が迫まつて居るに拘らず依然内に相争ふて居ることである。こゝに陛下の大なる御軫念があらせられるのである。故に和衷戮力以て君民一體となることが今日の日本にとつては最も大切なのである。この爲めには、その根本に於て君民愛を共にし得なければならぬ。明治天皇は『維新の詔』に於て「君臣相親しみて上下相愛し」と云ふことを以て我國の本來の有り方として居られる。また『軍人勅諭』に於ても「我國の稜威振はざることあらば汝等能く朕と其憂を共にせよ我武維揚りて其榮を耀さば汝等と其譽を偕にすべし」と仰せられて居る。かく君民愛を共にしてはじめて眞に君民一體となつて立ち上り得るのである。

憂を共にせんが爲めには、先づ愛を共にして居なければならぬのみならず、更に知見を同じくしてゐなければならぬ。例へば、親のみが一家の悲運の事實を知つて居れば親のみが憂ひて居るのであるが、同じく家を愛する子供達がその事實を知るならば、こゝに子は親と憂を共にし眞に親子一體となつて立ち上り、かくて一家の最大最善の力を發揮し得て、一家を復興し得るのである。

日本人にとつては、この日本が世界中に於ける唯一の家である。嘗て中世に於て神聖ローマ帝國を構成して居た西歐諸國民は、相互に風俗習慣を同じくし宗教文化言語に至るまでその根柢を同じくせるが故に、何れの國に移つても at home に生活し得る。母國のみが唯一の家ではない。これと全く事情を異にする日本人にとつては、

支那に行つても at home には生活し得ないのである。この日本なる家に於て『維新の詔』に仰せられたるが如く天皇は「億兆の父母」であらせられ國民は「赤子」である。これ詔書に仰せられたる「上仁愛ノ化ヲ以テ下ニ及ホシ下忠厚ノ俗ヲ以テ上ニ奉シ君民一體」の我國體である。かくて君民共に國を愛して居るが故に、萬一國家が悲運に向ふが如きことあらば、君民知見を同じくし君民憂を共にし君民一體となつて立ち上り以て最大最善の力を發揮しよく國難を突破し得たのである。このことは明治時代の日本を見れば明らかである。日清戦争に於てことに日露戦争に於て貧弱な軍備經濟の力を以てよく大國ロシアに勝ち得たところのものは、君民眞に憂を共にし眞に君民一體となつて最大の力を發揮し得たるが故である。これと反對に我國と全く國體を異にするツアのロシアに於ては、君民眞に憂を共にして戦ひ得なかつたが故に、日本の比でない有力な軍備經濟等を有しながらロシアは戦敗せざるを得なかつたのである。

故に「國運隆替ノ由リテ以テ判ルル所ナリ」と仰せられる今日の非常時に當りても君民憂を共にしてはじめてこれを突破し得るのであるが、この爲めには君民知見を同じくしなければならぬのである。今日國民の大多數が「國運隆替ノ由リテ以テ判ルル所ナリ」と仰せられるところの所以を知り得ない状態に置れて居る日本の現状に於ては、最大の力を發揮することは出来ないのである。即ち現代日本にとつて最も大切なことは、國民をして國家の實情を知らすことである。國民が現代日本の容易ならざる状態を知りさえするならば、國民は君と憂を共にして一體となつて立ち上りかくてはじめて最大の力を發揮し得るのである。かくて各領域のものが現代日本の難局に對するに自己の責任を根本的に反省しこれを國民に表明すると云ふことは、最も大切なことである。我々は經濟學界にあるものとして經濟學についてこのことを爲さんとするのである。

二 國體の忘却と經濟學

國民全體が一致し且つ一貫し得る指導原理は、その國の根本構造即ち國體に立脚せる原理である。故に國民全體がその國體を自覺しこれに立脚して行動せる時代は榮へ然らざる時代は衰へることとなるのである。明治時代の日本が勃興したのは、封建時代に於て一度忘れられて居た我國體が、明治天皇を中心として明確にされ更にこの國體を原理とすることにより新日本の指導原理が『五ヶ條の御誓文』並に『維新の詔』に於て確立しこの根本原理が諸領域に於ける指導原理に展開し政治については欽定憲法となり、軍事については『軍人勅諭』となり、教育については『教育勅語』となり、これがこれ等諸領域を指導したるが故である。

かくして封建時代より國體の自覺に歸つた日本は、國民全體が一致し一貫し得る指導原理を得て世界史に稀なる發展を擧げ得たのである、日清戦争ことに日露戦争と云ふが如き大國難にあたつても全國民は一糸亂れざる團結力を以て一貫して戦ひ得たのである。

かくの如く日本國民は 天皇を中心とする國體の自覺に立つ限り一致團結して一貫せる發展を爲し得たのであるが、大正昭和に進むにつれて次第に國體を忘脚するに至つたのである。

即ち明治維新以來の日本は、廣く「知識を世界に求め」たのであるが、それは「大いに皇基を振起す」る爲めであつた。然るに知識を世界に求め歐米の文物が取入れられるに従つて、これによつて皇基を振起すると云ふ本來の目的は次第に忘れられ、むしろ外國模倣を事として次第に自己の國體を忘れ行くこととなつたのである。

この外國模倣の第一は、英國模倣であつて、經濟學はこれに重大關係を有してゐるのである。

これまで日本に於て支配的であつた經濟學は個人主義經濟學であつて、それは、自然科學ことに數物學的な意識に於て考へられたものである。¹⁾従つて、この經濟學は恰も數物學に於けるが如き普遍的な眞理を問題とした。然るに、人生を對象とする經濟學なるものは、その根柢に於て何等かの人生哲學に基礎づけられて居るものである。英國の正統學派經濟學は、英國を母國として生れた個人主義經濟學であつて、この經濟學を基礎づけてゐるものは英國の國體の哲學即ち個人主義社會の哲學であつた。中世より近世への轉換期にあつた日本は中世の全體主義秩序の束縛の下にあつた人々を活潑な經濟的活動に高めんが爲めにこの經濟學を取入れた。然るにこの個人主義經濟學とこれが實現としての個人主義經濟社會の我國に於ける發展は、同時にその根柢をなす個人主義的個人生觀を次第に我國民に浸透せしめることゝなつた。この外來の人生觀が國民の心を占めるに従ひ我國體に基く人生觀は自ら薄れ行く結果となつたのである。このことは個人主義經濟學の移入者たる經濟學者について特に顯著に見られた。

かくて個人主義的に規定されたる日本に於ては日本の國體と矛盾する個人主義的表現が次第に著しくなつた。その最も顯著なものは、我國體の中心原理たる「天皇を英國の King 同様に國家の機關として考へる」「天皇機關説」なるものが、公然行はれるに至つたことである。而して政治經濟の一切が英國模倣を理想としたこの日本の國體の個人主義的忘脚は、日本に於ける資本主義的體制が進む程深まり遂に第一次世界大戰期に至つて日本の資本主義體制が全盛期に達すると共に極度に達したのである。かくて日本の對外的態度も英國的となるに至つた。即ち第一次大戰には世界の列強は英佛獨露伊より米に至るまで悉くが參加し、只だ日本のみが自由の地位に立つ

1) 拙著『精神科學的經濟學の基礎問題』第十頁以下參照。

た。かくて日本はその海運力を以て東洋のみならず、西洋にまでもその商品の販路をひろめることが出来、所謂成金時代を將來した。このことによつて日本は益々資本主義的に陶醉し全く國體を忘れるに至つた。かく資本主義化された日本の對外的行動は、明治時代のそれと方向を異にするに至つた。明治維新の日本は、西より東に押し寄せ來れる白人の怒濤が有色人種の總ての國々の獨立を侵した時に、極東の孤島に於てこれを躍ね返へした。かくて有色人種の中唯一國獨立を保つた日本は、ロシアが武力を以て滿洲を侵さんとするに當りこれと戰ふて勝ちその兵を退りぞけしめたのである。このことは白人の壓迫下にあつて白人の搾取を運命視して居た有色諸民族にとつては青天の霹靂であつた。このことは、これ等諸民族をして日本の助により白人の壓迫より解放さるべき希望を抱かしむるに至つたのである。白人にとつては有色人種は結局彼等に從屬すべき劣等なるものであるが、有色人種日本によつてはこの白人の有色人種に對する壓制の様は同胞に對する壓迫として憤慨に堪えざるものであつた。また有色人種國日本はこの有色諸民族を白人の壓迫より解放しその力を恢復せしむることによつて、これ等諸有色人種の長兄としてのみその萬歳を計り得べきところのものであつた。故に今や白人種が西歐に於ける相互の鬭争にその全力を注ぎ東洋に餘力を有せざるに至れるこの時こそ、日本が世界史に創めた新方向を發展せしむべき時であつた。日本がこの世界史的自覺を徹して東洋の諸國民に對し眞に同胞感を以てその解放に援助を與へたならば、白人の下に於ては被壓迫の運命より外なきこれ等諸民族は、敢然として日本に歸向し心服したのである。然るに資本主義的迷盲の中にあつた日本はこの世界史的自覺に歸ることを得ず、白人諸國と同様の態度を以て東歐諸民族に對處したのである。かくて内に資本主義化を深めたる大正期の日本の對外的行動は、明治の日本のそれと全く性質を異にするに至つた。

明治時代に於ける戦争が日清戦争も日露戦争も日本國家の存立を防衛する爲めの戰としてその大義名分が國民に徹し全國民は一致團結して意氣昇天の勢を以て立ち上つたのに比して、シベリア出兵、濟南出兵は非常な相違であつた。また對支二十一ヶ條なるものは支那の民衆をして抗日感情を激化せしむるに至る禍根となつた。このことは支那の民衆のみならず東亞の諸民族の日本に對するこれまでの信頼の度を減せしめざるを得なかつたのである。

この日本の資本主義的發展も大正九年の恐慌期に於て行き詰り、次第にその矛盾を激化するに至つた。かくて昭和の日本にはこの資本主義秩序を否定せんとする社會主義思想が高まつて來た。即ち第一次世界大戰に於ては日本の隣國であるロシアに於て、社會主義革命が成り、社會主義體制が展開しはじめた。このことは日本に對し強き影響を及ぼさざるを得なかつた。一度自己の國體を忘れ、英國の國體と混同するに至れる日本には、今や自己の國體をロシアのそれに混同するものを生ずるに至つた。それは社會主義革命を日本に於て模倣せんとするマルキスト青年に於て見られた。これ等青年はロシアの「ツァー」の本質と日本の「天皇」の本質とを區別し得なかつたのである。他方これに對してロシアに於て社會主義革命がツァーを倒した故を以て社會主義ロシアを以て日本の國體の敵であるとする考へが支配的となつた。これ等の人々も「ツァー」の本質と「天皇」の本質とを混同した點に於てはマルクス青年と同様であつた。

この社會主義に關する相反せる動きに對しても、經濟學者が支持を與へた。即ちマルクス青年を學問的に鼓舞したところのものは即ちマルキシズムを普遍妥當なる眞理として論證せんとするところのマルクス學徒であつた。これに對し在來の資本主義的立場に立てる經濟學者はマルキシズムの誤謬たることを普遍的に論證せんとし

た。而もこの相反する態度の學者は根本的に於て同様の誤謬を冒したのである。即ち兩者はマルキシズムの眞理性を普遍的な問題とするのである。即ち人文科學の眞理を自然科學同様の普遍性に於て問題とする點に於て兩者は同様な學問的誤謬を冒すものである。この誤謬は日本の實踐生活に重大な影響を與へた。即ちマルキシズムに反對する學者がこれを以て一般的に誤なりとなし従つてロシアに於て社會主義革命がやがて失敗に終るべく考へしめたことは、ロシアの將來を不當に輕視せしめ日本國民をして油斷せしめた。

然るに人文科學の命題をかくの如き自然科學的命題として取扱ふことは、大なる誤謬であつた。個人の健康問題についても、藪醫者は特定の個人について成功せしことを無差別に如何なる人々にもそのまま適用せんとするのであるが、名醫は個々人の體質を先づ調べ、その各々に適當する健康法を確立するのである。ましては、國民なるものは、自然、民族、歴史を異にするとおりの個性的存在者である。故に國民の發展向上に役立つべき人文科學は、決して一樣なものではあり得ないのであつて、實踐的な學問程、その國の根本構造即ち國體に即應するものたることを要するのである。而してマルキシズムなるものは、正にロシアの國體に適應せるものであつたのである。即ち飽なき搾取的な土地階級としてのツアー並にその下に於けるロシア貴族は、國民の憤激の的となりツアーにして天命を全ふするものは少なき有様であつた。故にロシアの有爲の青年は、幾度かこの搾取階級の壓迫よりロシア國民大衆を解放せんと心身を碎いたのである。レーニンもその一人であつたが、彼はロシアの事實を研究しこれが解放の爲めの理論を求め遂にマルクスの學說に於てはじめてこれを見出したのである。抑もマルクスは飽なき搾取階級としてのルイ王朝並にその貴族階級の壓制より國民を解放すべき平和手段が盡き遂に階級革命の手段に訴へてこれを遂げ得たるフランス革命の構造を深く究明してこれを資本主義社會に適用したのであ

る。かくて飽なき搾取階級としての支配者階級に對する被搾取階級の階級革命による大衆解放を以て根本的立場とするマルキシズムの立場は、正にロシアの國情に適應するものであつた。かくしてロシアは社會主義革命によりはじめてツアーの暴政より國民大衆を解放し得、新な社會主義制度の中に合理的に組織されたのである。賢明なる社會主義の指導者は、經濟的革新に苦心し、五ヶ年計畫を重ねることによつて今日偉大な生産力を創り出しのみならず、ツアーの壓制下に於ける國民を愚にする教育を革新することにより國民大衆を社會主義的に教育した。革命後二十四年の今日に於ては、社會主義の新教育を受けた者が三十前後の中建層を構成するに至つた。それまでは一國社會主義を標榜し周圍の諸國と不可侵條約を締結し専ら國內の革新に力を用ひかくて人的物的な國力を整備し得た今日のロシアは、ノモンハンに於て日本と争ひ、第二次世界大戰の勃發に點火しポーランドに侵入し、フィンランドと戦ひ、バルト海三國を取り入れ、今や英米、日獨伊の對立の間に介在し漁夫の利を得、以てその國力を愈々高めつゝあるのである。若し日本の學者の云へるが如く、社會主義にして絶對的に誤りであつたならば、社會主義革命後のロシアは、帝政時代とは一變してかくの如き發展をなし得なかつた筈である。これまでの資本主義經濟學者がかくの如くロシアの國體に適應し従つてロシアをしてかくも強大ならしめたマルクス學を専ら誤謬なりとする論證を事とし、以て日本國民をしてロシアを輕視せしめ、油斷せしめたるところは、今や容易ならざる影響を日本の國運に齎らすことゝなつたのである。

これと共に日本の國體とロシアの國體とを混同してツアーを倒せし社會主義ロシアを以て日本の國體の敵であると考へしめたことは、軍事外交上に於けるロシアへの敵對的態度となつて現れたのであつて、このこともまたロシアに對する日本の今日の關係にとつて重大なる障害となつて居るのである。またかく日本がロシアに敵對

感情を止めせしことは、ロシアをして日本を極度に危険視せしめることとなり、遂に支那をして日本と戦はしむることに働いたのである。今日日本は支那事變により重荷を負ふて國際的非常時にあるのであるが、この支那事變の原因はこゝにまで溯つて考へなければならぬのである。

これまでの經濟學者がマルキシズムを以て一般的に誤なりとなしたることが、今日の非常時日本にとつてかくの如き障害を齎らすこととなつたのであるが、これと反對にマルキシズムを以て普遍的な真理であるとなし従つてそれを日本にも妥當すると考へたことが、マルクス學徒の日本に及ぼせる害毒は云ふまでもなく大なるものであつた。それは日本の國體をロシアのそれに混同せしめる傾向を生じた。而して少なからざる青年は資本主義の害毒を除かんとして自己の利害を忘れて立つたのであるが、マルキシズムの人生觀がわが國體と矛盾せし爲めそれ等の青年は倒れざるを得なかつたのである。

經濟學者がマルクス學に對して取るべき正しき立場は、この經濟學の根柢たる人生觀に十分なる研究と吟味を與へ以てマルクス學はロシアの國體に適應することを明にし従つて隣國ロシアが社會主義革命によつて強大となるべきことを日本の國民に警告しこれを徒らに侮辱することを戒めると共にそれが我國體に合致せざるものなることを明にすることであつた。然るにマルクス經濟學に對する經濟學者の無理解な態度は、これまで資本主義經濟學の無批判なる遵奉が日本國民をして國體を忘れしむる影響を與へたその方向を更に催進し、現代日本の國運に對し重大な難問題を結果することとなつたのである。

滿洲事變後に於ては、このマルクス主義に對する否定的方向が急激に強化し來つた。これと共に資本主義に對する批判の空氣も高まつて來た。兩者を共に我國體と矛盾するとなす立場が高まつて來た。而も今や高まり來れ

る自ら日本主義と唱ふる立場は果して日本主義であつたらうか。それはイギリスの資本主義、ロシアの社會主義に反對して、ドイツの全體主義を謳歌する立場に外ならなかつたのである。ドイツに於ては全體主義なるものは正にその國體に合致する立場であつた。世界大戰後ロシアの影響を受けて一度社會主義的革命に陥つたドイツに於ては、社會主義的政府は、戰敗ドイツがベルサイユ條約の鐵鎖の中に苦惱せるにも拘らず、無産者階級の利益となるべき政策を行ひ國民全體の利益を無視したことに對する國民の反感を擔ふて立てるのは、ヒットラーを首領とするナチスの一黨であつた。ナチス黨員はヒットラーを全智全能なるものとしこの指導者に絶対服従をするのである、即ち黨員はヒットラーを指導者としてこれに絶対服従するものであると共に國民はこの一國一黨たるナチス黨に絶対服従することを要するのである。このヒラーキーの形を有する全體主義の體制は、その國民性が意志的であり命令服従の秩序を喜ぶ獨逸國民に最も適當するものである。故にヒットラーの指導の下にこの全體主義體制をとるに至れる獨逸は、數年ならずして今日の隆盛を致したのである。この全體主義が正にドイツの國體であることは諸種の面よりこれを明にし得るのであるが、例へば獨逸は中世的秩序より近世的秩序に入るに當つても、權力階級を主體として進み、資本主義時代に入つても、この國に於ては云はゞプロイセンの皇帝を將軍とし他の諸邦の元首を諸侯とするところの封建的體制を保持して官僚階級が主體となつて全體を支配したのである。このドイツに於ては、全體主義的體制がその國體に合致せるものとして獨逸を強化したのである。然るに日本に於ては、滿洲事變以來の權力階級の擡頭と共に、この全體主義の模倣が強く行はれはじめた。而してこの全體主義を以て日本的立場であると主張したのである。こゝに日本國體のドイツ、イタリーの國體への混同が生ずるに至つた。學者はこれに對してこの全體主義が日本の國體に妥當すべきものであるか否かを明にしてこの

全體主義者の行動を批判し正しく指導すべきであつたが、そのことはなし得ず徒らにこれに追從迎合するものに加へつゝある。かくして經濟學者の中にも所謂「Führerprinzip」「指導者原理」又は一國一黨を主張するものを次第に増加しつゝある有様である。

この全體主義が我國體に矛盾するものであることは、この一國一黨又は指導者原理なるものが、我國體の最高原理たる「天皇」と如何なる關係にあり得るかを考へれば一目瞭然たるものがある。この立場に於ては、一切の組織が指導者「Führer」と服従者「Gefolgshafte」との關係に於て考へられるのである。故にこの「指導者」たるものが「天皇」の外にありとすれば「天皇」の地位と相容れない。また「天皇」御自身を、「指導者」であるとすることも許されない。これ我國の「天皇」なるものは、我國民生活を一貫せる根本原理であつて、他國の國情より發生せし「指導者」なる概念によつて規定せらるべきものでないからである。

また今日我國に於て普通に云はれる新體制なるものも、多くは獨逸の全體主義の直譯模倣の域を出ないのである。「公益優先」¹⁾と云ひ「國防國家」Wehrstaat²⁾と云ひ獨逸語の直譯であつて眞に日本の國體に即せる概念ではない。「大政翼賛會」なるものも本來は新體制を實現する爲めの國民運動の中核體の組織であつた。これが「裏」の存在たることを止めて「表」の存在となつて來るならば、それ自身近衛聲明が排除したところの「一國一黨」となる。これまた政治に於ける全體主義の模倣である。總ては國體の深き自覺に發すべきである。

かくして今日の日本に於ては、政治、經濟、教育等國民生活の諸領域に於て全體主義の模倣が益々加はると共に、既にこれまで資本主義、社會主義によつて國體の自覺を失ひ來たれる日本は、今や更に全體主義によつて一層國體を忘れんとして居るのである。

1) Gemeinnutz vor Eigennutz

2) 我國に於ては「國家の國防」である。國家なる主體の機能としての國防の強化たるに過ぎない。

要するに中世より近世への變革期に於ては、國體の明確な自覺に高まり廣く知識を世界に求めて世界史に稀なる發展をなし明治の時代を通じてその國運が駸々として興隆せる日本は、大正昭和の時代に進み入るに従ひ次第に外國文化にとらはれて自己の國體を忘却するにつれ諸領域に於て諸種の破綻を生ずるに至つたのであるが、これに對して經濟學者も大なる責任を有するのである。かくしてこの國體を忘れしめられたる現代日本は、今や世界史の變革期が急速に進展するにつれ未曾有の危機に陥らざるを得なかつたのである。

三 世界的日本の興隆と日本經濟學

若し日本がこのまゝで居るならば、遂に衰亡せざるを得ないことは、幕末の日本が國體の自覺に歸一しなかつたならば亡びたであらうと同様である。明治維新の日本が唯だ國體の自覺に立つて高まり來れると同様に、この日本が、再び深き國體の自覺に歸つて新な出發を始めるならば、こゝに眞に日本の世界史的時代が始まるのである。即ち明治の日本は國體の原理を以て自己の存立を全うし得たのであるが、今や國體の深き自覺に立ち歸へる日本は自己の國體の原理に基いて今日の行き詰まれる世界を革新し眞に人類平和の世界を將來し得るのである。

紀元二千六百年式典の勅語に於て「今や世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判ルル所ナリ爾臣民其レ克ク嚮ニ降タシシ宣諭ノ趣旨ヲ體シ我カ惟神ノ大道ヲ中外ニ顯揚シ以テ人類ノ福祉ト萬邦ノ協和トニ寄與スルアラシコトヲ期セヨ」と仰せられたる大御心を我々はこゝに拜し奉るのである。而してこの爲めにはこの「嚮ニ降タシシ宣諭」と仰せられる紀元二千六百年紀元節の詔書に於ては「和衷戮力益々國體ノ精華ヲ發揮シ」と仰せられて居ることが、現代日本にとつて最も重大なのである。所謂新體制なるものも、唯だ舊體制と異なると云ふ意味

ではなく、國體の精華を益々發揮すると云ふこと以外にはないのである。かくてそれは日本の國體を原理とするものなるが故にむしろ眞體制と云はるべきものである。¹⁾然しこの聖旨を奉體しこれを實現すると云ふことは容易なことではない。

先づ國體の精華を發揮せんとせば、國體を明かにしなければならぬ。而して日本の國體を眞に明にすると云ふことは、この國體を世界的聯關に於て歴史的並に哲學的に究明することである。而して國體の精華を發揮すると云ふことは、この國體の精華を國民的活動の總ての面に於て徹底的に實現することである。即ち日本國民の政治、經濟、教育等總ての領域に於ても徹底的に實現しなければならぬのである。²⁾

このことが可能なるが爲めには、これが實現を指導する組織が確立されなければならない。これが即ち今日の日本が要請しつゝあるところの日本政治學、日本經濟學、日本教育學等である。故にこれ等の日本學はこれまでのイギリスの國體の哲學、ロシアの國體の哲學、ドイツの國體の哲學等の代りに日本の國體の哲學に基礎付けられたところの學的體系である。

これを經濟について云へば日本經濟の新體制とは、日本の國體の精華を、國民經濟の領域に徹底的に實現することである。而して日本經濟學なるものは、この國體の精華を國民經濟の領域に實現する爲めの學的智識として日本の國體の哲學に基礎づけられた學的體系である。これまでの經濟學が、國體の忘却を齎したとは反對に、この日本經濟學は日本國民の國體の自覺を深め、且つ經濟の領域に國體の原理を徹するに役立つものである。かくの如く國民生活の諸領域に於て、國體の自覺並に實現に對する努力がなされるならば、こゝに國體の精華を益々發揮して以て眞に人類の福祉と萬邦の協和とに寄與し得る日本となり得るのである。即ち眞の日本經濟學なるものはかゝる意義を有するものでなければならない。

1) 拙著『新體制の指導原理』序文第二頁並に本文第五頁以下參照。

2) 拙著第四二頁以下參照。